

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後平成 21 年 3 月 26 日 作成
20年度決算把握後平成 21 年 5 月 19 日 作成

事務事業名		ふれあい読書講座実施事業			<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input checked="" type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連							
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部 教育委員会事務局 所属課 生涯学習課 所属班 図書館班 法令根拠 図書館法第3条(図書館奉仕)、合志市立図書館条例第5条						
	施策	20	生涯学習の推進			課長名 高木敏明 担当者名 青木 正代 (内線) 1540						
	基本事業	68	学習やスポーツへの参加機会の提供									
予算科目	会計	1	款	10	項	5	目	8	事業連番	10801	<input type="checkbox"/> 20年度で終了 <input type="checkbox"/> 21年度から開始	成果優先度評価結果 5 コスト削減優先度評価結果 9
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 16 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)											
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)												
【事業の内容】図書館利用者一般向け講座。講師がテーマに沿った本をわかりやすく解説する、参加者が読書に親しみをもち感動を共有することができる 【業務の流れ】講師依頼・参加者募集チラシの作成及び配布、申込受付、会場の手配・設置、資料の作成・受付、謝金の支払事務 【主な予算費目】報償費(講師謝金)												

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) 21年度も3回の講座を予定している。開催場所を西合志館で1回、合志館で2回開催する予定。開催時期は寒い時期は避け夏から秋ごろまでに計画できるように講師依頼は早めに行う。
20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO) 講師を招き、2時間程度の文学講座を3回開催した。テーマは家族であった。12月、2月の第3水曜に合志館で開催、1月の第3水曜に西合志館で開催した。3回の参加者合計は95名であった。	
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 市民	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) 回 → ア 開催回数 イ 参加者見込み人数 人 ⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) 人 → ア 参加者数 イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 本に触れ親しむ機会をつくり新たな読書層の開拓を図る。	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) 世帯 → ア 参加者見込み人数に対する参加者数の割合 イ
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか) 学習やスポーツに参加する機会がある。	⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) % → ア 学習に親しむ機会があると思う市民の割合 イ スポーツに親しむ機会があると思う市民の割合 %

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ~ 年度	
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円							総 ト ー タ ル コ ス ト (期間 限 定 複 数 年 度 の み 記 載) 目 標 合 計 値 画 22 年 度	
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
	(A)事業費計	一般財源	千円	24	36	36	36	36	36		36
		うち指定経費	千円								
		うち時間外、特殊勤務手当	千円								
		正規職員従事人数	人	1	2	3	3	3	3		3
		延べ業務時間	時間	15	30	30	30	30	30		30
(B)人件費計	千円	60	119	119	119	119	119	119	119		
トータルコスト(A)+(B)	千円	84	155	155	155	155	155	155	155		
活動指標	ア 回 イ 人		2 160	3 240	3 240	3 150	3 180	3 180	3 180		
対象指標	ア 人 イ		49	112	120	95	120	150	150		
成果指標	ア 世帯 イ		30	40	50	63	60	83			
上位成果指標	ア % イ %		45.1 42.6	50.8 46.5	45.5 43.3	47.3 44.3	45.8 43.6	46 44			

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

- ① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?
平成8年に読書活動推進事業として文学作品を楽しむ、身近に感じて頂く目的で開始した。
- ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
地域に関連した作品をテーマに始められたが、最近は社会情勢を反映した内容になってきている。年配の人々を中心に徐々にではあるが、若年層の参加者が増えてきている。
- ③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
個々の活動である読書が、講座では参加者同士が感動を共有できる場となり、読書を介した人間関係が出来て楽しいと喜ばれている。

事務事業名	ふれあい読書講座実施事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は20年度の事後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】 市民の知的要求に応え、生涯学習を支える。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】 市民の知的要求に応え、生涯学習を支え、講座に参加することにより共通の感動を味わい、個々の読書活動を社会参加へと導き、子どもたちへの読書活動推進の働きかけへとigsaw。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか? 意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】 対象、意図とも現状で適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 参加者を増やすために、広報等を利用し、市民に広く周知する。また事業の内容をもっとわかりやすく理解できるよう周知内容を工夫する。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】⇒ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 現在、本講座を通じた人間関係ができており、新しい図書館の魅力となって少しずつではあるが広がっている。この人間関係は、講座を通じた、価値観を同じくする信頼関係で、講座がなければ生まれなかった、社会的な財産となる可能性がある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか? 類似事業との統廃合ができるか? 類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ⇒ (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似の目的(意図・対象)をもつ事業が他にない。 <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要経費は講師料であるが、魅力ある講座内容と集客率を考えると、講師の知名度も肝心な要因である。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? 成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか? (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 講師以外に人件費は不要である。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正になっているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 図書館法により無料の原則に則って運営している。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	①目的妥当性については、…。 ②有効性については、…。 ③効率性については、…。 ④公平性については、…。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 事業の内容をもっと分かりやすく、理解できるよう周知内容を工夫、改善するとともに、多くの市民に参加してもらえよう、早め講師依頼など取り組む。	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持					低下			
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上		○																				
	維持																						
	低下																						

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度	1	(直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9)
(2) 貢献度	1	(貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12)